

● 選考会を終えて（※あいうえお順）



作家

有吉 玉青 Ariyoshi Tamao

のき先に咲く花や緑は、見る人のあこがれをかきたてます。やってみようという気持ちも生まれるのではないのでしょうか。美しい「まち」は、さらに美しい「まち」を作っていくように思いました。



カラーコーディネーター、杉並区まちづくり景観審議会委員

大倉 素子 Ohkura Motoko

「まち」デザイン賞の候補地を巡り、その近隣にもまちなみの美観形成に寄与している住宅や植栽、店舗などに数多く出会いました。まちなみは、そこで暮らしを紡ぐ人々によって、お互いに影響しあいながら形作られていくことを感じました。



建築家

大嶋 信道 Ohshima Nobumichi

杉並のまちなみ景観を豊かに、魅力的なものにするためには、緑の力を上手く取り入れることが、大きな鍵を握っています。応募作のなかには、庭木や花々をまちなみに向けて配置し、道行く人々を楽しませる、さまざまな試みや創意工夫が数多くみられ、作り手の方々の心意気を感じました。



建築家

河野 進 Kohno Susumu

選考対象は住宅が多かったのですが、隣同士で生垣や緑化塀を連続させ豊かな景観を生み出したもの、四つ角に塀を設けず手入れの良い庭で緩やかに仕切ることで見通しと広がりを提供するものなど、地域に対する気配りが魅力的な「まち」を作り出しているものが印象に残りました。



女子美術大学芸術学部教授

津田 裕子 Tsuda Hiroko

記録的な酷暑の中の選考地巡りでした。出会った景観は、古いものも新しいものも大切にし、次世代に繋げたいと願う、住まう方の心意気や愛情をたくさん感じるものでした。

第11回 杉並 「まち」 デザイン賞

選考経過

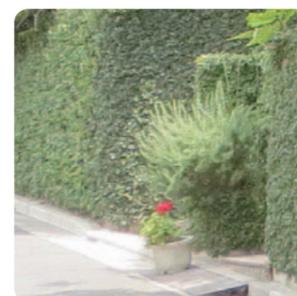
募集対象 区内に現存し、魅力的なまちなみづくりに貢献している建物・工作物・地域活動など

募集期間 2013.04.11-07.31

応募件数 55件

選考会 2013.08.29（現地視察含む）

表彰式 2013.11.17



南荻窪 (旧神明町) の家

●南荻窪3丁目



選考委員より

柱や梁を外壁に現す“ハーフティンバー”というヨーロッパの民家由来のデザインの洋館で、戦前に建てられました。暖炉の煙突が立つ急勾配の瓦屋根や、煉瓦と大谷石のできた門柱、そして、緑を効果的に配した外構とが相まって、趣ある美しい景観を醸しています。(大嶋信道)

所有者のお話

我が家は赤瓦の急傾斜の屋根と煙突のある西洋館です。昭和8年、のちに木造建築家として名を馳せた佐藤秀三がデビュー作として取り組んだものです。神明町九十番地と刻印された青銅表札は町の歴史を語り、建物は戦災を免れたそのままの姿で残り、戦後10年間は米軍に接収された事実など、時空を超えた何か品格を備えているように思えます。



救世軍 恵みの家

●和田1丁目



選考委員より

高さを抑えた2階建ての建物が、植栽を施した広い歩道を介して適度なスケールに分節され雁行して建つ。建築後日も浅いが、人々の息吹と賑わいが増し、周りを取巻く植物も育ってくれば、まちなみにじっくり馴染んだ気持ちの良い老人福祉施設になるだろう。(河野進)

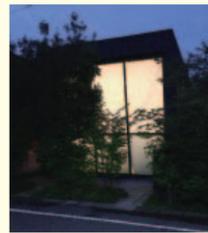
所有者のお話

「特別養護老人ホーム」でありながら、“施設”らしくない建物。和田の街並みに溶け込む、明るく小さな8棟の住居の集まりです。風が通り抜け、緑が揺れ、光が舞う、そんなホーム“家”を目指しました。入居者、毎日訪れて下さるご家族、一緒に過ごす職員たちの息が吹き込まれ、日々ぬくもりを増している「恵みの家」です。



沓掛の いえ

●清水2丁目



選考委員より

道路と建物との間に塀を作らず、植栽と花で緩やかな仕切りを設けている。大きなガラスの開口を持つキュービックな形状と株立ちの緑が一体になって、閑静な住宅街のなかで、チョット中をのぞいてみたくなる瀟灑な住宅。(河野進)

所有者のお話

このいえは道路より3m後退して建っており、門や塀などの隔てるものがない中間的な場を設けています。この場合は、豊かな緑や花によって柔らかくまち並みと繋がっています。また、まちに面した大開口は、昼は開放的に自然を育む場として、また夜は大きな行燈のように周囲を照らす道標としてまち並みに寄与しています。

つき あたりの オアシス

●西荻北3丁目



選考委員より

自動車は通り抜けができず、Uターンのみできるようになっています。こちらの事例では、中央に自然な印象を与える植栽や岩石が配されていて、通りの入り口からは、ちょうど突き当りに小さな里山があるように見えます。住宅街の中での公に開かれたみどりのあり方として、今後もこのようなみどりが点在していくことで、街が潤っていく可能性に希望を感じました。(大倉素子)



所有者のお話

100mの私道の突当りにあるロータリー。前所有者が馬車返しとして作られたそうです。今は四季折々の草花を楽しむ石庭～野鳥の水呑み場として皆様に親しまれています。北側に木々が傾く程、強い風の通り道。また、近隣に子供さんが多いため、殺虫剤は一切使用しない等々管理は大変ですが、ターシャ・テューダーの庭を目指して草むしりに励んでいます。

花の 絶えない 庭

●成田東5丁目

選考委員より

青梅街道の南阿佐ヶ谷駅を少し入った所に、一年を通じ花の絶えない家が、道行く人に安らぎを与えています。南側の勾配のあるスペースをすべて開放的な空間にした、新しいスタイルの庭です。手入れも行き届き、住む人の心の豊かさが伝わってくるようです。(津田裕子)



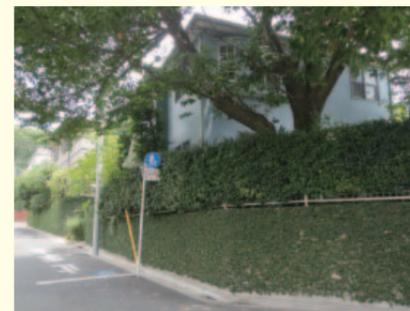
所有者のお話

此方に越して四年、家のカモフラージュに植木をと、手始めに山桃を植え、実もついて感動でした。この二月夜中に不思議な強い衝撃音!! 山桃だけが折れてました。謎です。人を和ませる花のパワーには驚きです。ここに存じ上げない方から推薦を頂きました。花の精霊たちを称えて下さりありがとうございます。



所有者のお話

この植物は、寄せ植えの鉢の中に混っていた苗で、プミラという名が表示されていました。(後に通りがかりの方に「オオイタビ」の名前を教えてくださいました。) 塀の傍に移植したところ、どんどん伸びて塀全体を覆うようになりました。西日の当たる塀が、この植物のおかげで盛夏でも熱くならず嬉しいことです。ただ、旺盛なので時々刈り込みが必要です。



所有者のお話

お手入れ大変ですと、道行く人に声をかけていただく事があります。その甲斐あって、今回このような賞を頂くことが出来て本当にうれしく思います。新芽が出るころは、とても緑がきれいです。

オオ イタビの 塀

●善福寺1丁目



選考委員より

お隣どうしで蔓の塀。ご近所の和が感じられる、素敵な緑のまちかどです。(有吉玉青)